

レンコンが銘柄産地再指定 3月 1日



右から中川清彦県南農林事務所長、坪井市長、来栖孝一 JA 土浦蓮根本部会霞ヶ浦支部長

霞ヶ浦地区のレンコンが、茨城県銘柄産地に再指定されました。安定良品出荷やハウス栽培による周年出荷、体験交流やPRが評価されたもので、平成元年以来継続して指定を受けています。

霞ヶ浦土地改良区と災害協定 3月 25日



協定書を交わす萩原敬 霞ヶ浦土地改良区理事長 (左)と坪井市長

霞ヶ浦土地改良区と市消防本部は、同土地改良区の幹線水路付近の火災時などに、出島用水を防火用水として使用できる協定を締結しました。幹線水路は、牛渡機場から栄倉(新生)まで農業用水を送るための地下埋設管です。

下稲吉中PTAと卒業生が学びやに恩返し 3月 26・27日

下稲吉中学校では、PTA(萩原裕之会長)が中心となり、3月26日・27日の2日間、校舎内のペンキ塗りや窓ふき、トイレ掃除、除草などの奉仕作業を行いました。当日は、卒業生や生徒、地域関係者など延べ200人が集まり、これまでお世話になった学びやに恩返しをしました。4月8日には、キレイになった校舎に新入生を迎え、新年度がスタートしました。



新1年生の教室となる校舎4階のペンキを塗るPTAと卒業生

漁業者がヨシ帯保全 3月 1~9日

霞ヶ浦沿岸のヨシ帯は、魚の産卵場であり、水産資源の保護・培養と霞ヶ浦の水質浄化に大きく役立っています。ヨシ帯保全のため、漁業者を中心とした組織により、平成25年まで保全活動を行う予定です。



柏崎・田伏・加茂のヨシ帯 約2ヘクタールの清掃や刈り取りを行う漁業者

市内小学校で卒業式 3月 19日

市内13の小学校で卒業式が行われ、計400人の児童が中学校へ進学しました。下稲吉東小でも、卒業証書が一人一人に授与された後、在校生の合唱のなか卒業生が退場。式後も恩師と記念写真を撮るなど別れを惜んでいました。



卒業証書授与(下稲吉東小)

茨城の空の玄関が開港

3月 11日

記念イベントに「空の市」「七色帆引き船」「パラセーリング」

ターミナルやフライト情報は茨城空港ホームページを参照 HP <http://www.ibaraki-airport.net/>

首都圏第3の空港として、小美玉市に茨城空港が開港し、神戸からの第一便を迎えました。開港に先立ち、空港近隣市町で構成されるセブンネットでは、空港公園で「空の市」を開催。特産品販売や郷土芸能の披露を行い、見学者でにぎわいました。開港日の11日とその後2日間は、空港を利用する飛行機の機内から湖上の景色を楽しんでもらおうと、高浜沖で七色帆引き船とパラセーリングを実施。湖畔にも多くのカメラマンや見学者が集まり、歓迎ムード一色となりました。市では、国内外からの観光客を呼び込むため、4カ国語で書かれたガイドマップを空港で配布しているほか、4カ国語対応の観光協会ホームページを公開しています。



開港イベント「空の市」で成井ばやしの披露



空港を一目見ようと来港する人々



開港記念イベントに華を添えたパラセーリングと七色帆引き船

スイートソルガムのバイオ燃料で試験走行 3月 26日



バイオエタノール混合の燃料で試験走行する茨城県の公用車

茨城大学では、スイートソルガムから作ったバイオエタノールの燃料生産プロジェクトで、その燃料を混合したガソリンで自動車を走らせる試験走行を水戸キャンパスで行いました。試験走行車には、10パーセント添加燃料のE10を、本市の公用車にも3パーセント以内添加のE3を混ぜ、キャンパス内を循環走行しました。スイートソルガムは、栽培適応域が広く、緑肥になるため耕作放棄地の地力回復としての利用や飲料アルコールにも期待されていることから、本市でも試験的に20アル程度の畑地に栽培を行ってきました。